

教育民生常任委員会 所管事務調査 報告書

1 開催日時

令和7年10月14日（火曜日）午後1時30分～午後3時00分

（令和7年10月14日～10月16日）

2 開催場所

福島県大熊町：義務教育学校 大熊町立学び舎 ゆめの森

3 出席委員（6名）

委員長 浅野直子

副委員長 伊藤嘉樹

委員 小松大介

委員 荒谷敏

委員 出川博一

委員 村上治

4 欠席委員（なし）

5 説明のため出席した者（2名）

大熊町教育委員会 教育総務課長 幾橋みね子

大熊町教育委員会 教育総務課主幹兼指導主事 臼井 功

6 事務局職員出席者（1名）

副参事 相澤美和

7 調査事項

義務教育学校 大熊町立学び舎 ゆめの森について

8 調査報告

震災・原発事故により一変した生活環境や教育環境、経済等あらゆるものを犠牲にしながら今を生きる強さは、故郷を守り歴史を失わない意思を感じ取りました。忘れてはならない震災復興へまだまだ学ぶべき場所です。

それは、教育の現場で全く新しい取り組みにより、人間の可能性と自由と遊びを連動させて教育が育まれています。0歳から15歳（認定こども園から義務教育まで）を一体化したシームレスな教育施設は、幼児期の「あそび」から始まり、2022年に義務教育学校「学び舎ゆめの森」では園児児童生徒9名でスタート、2025年7月98名となり、区域外就学が多い。

教育理念を「温故創新」の下、ICT（AI 型教材）を徹底的に活用し個性を活かし、探求し、創造と共有で地域コミュニティーも確立、インクルーシブ教育の環境も整備されています。

特色ある学びとして

- ① 0歳からのシームレスな学び
- ② 学びのマネジメントを基盤とした個別最適な学び
- ③ 未来創造型探究の展開（未来デザインの時間）
- ④ 演劇教育～あたらしい大熊の物語の創造と共有
- ⑤ インクルーシブな学びのコミュニティー

課題等はこれから実績を踏まえて評価されと考えます。

各自治体の限られた予算の中で、本市に於いてもこれほどの整備は不可能かもしれません。しかし、生きるための子どもの自主性、夢を育てる教育環境へもう少しシフトしていく必要があるのではないかと。「こうあるべき」は、必要ないのではないかと提言したいと思います。

以 上

令和7年12月2日

委員長 浅 野 直 子
